

## 平成 29 年度第 3 回さいたま市地域医療構想調整会議 協議概要

期 日：平成 29 年 11 月 22 日(水) 午後 7 時 30 分～午後 9 時 00 分

会 場：さいたま市保健所 2 階 第 1 研修室

出席者：(委員)

水谷 元雄 (座長)、松本 吉郎、澁谷 純一、林 承弘、安藤 昭彦、百村 伸一、  
加計 正文、坂本 嗣郎、黒田 豊、細田 洋一郎、西村 直久、丸山 泰幸、窪地 淳

(プレゼンテーション参加 8 医療機関)

さいたま市民医療センター、埼玉精神神経センター、さいたま赤十字病院、  
さいたま北部医療センター、彩の国東大宮メディカルセンター、指扇病院、  
自治医科大学附属さいたま医療センター、西大宮病院

### 【協議内容】

《議題 (1) 病院プレゼンテーションについて》

事務局から資料 2、3 に基づき、病院プレゼンテーションのルールや注意事項等を説明  
後、あいうえお順で病院プレゼンテーションを実施。各プレゼンテーション終了後、質  
疑応答を実施。

○さいたま市民医療センター

資料 4 - 1 に基づいて説明。

(質疑応答)

Q2025 年の高度急性期病床が 8 床と記載されているが、さいたま市民医療センタ  
ーの実力を考えると、少ないように感じるが、どのように算定されたのか。

A 色々議論をしたが、国の考え方に照らして、(医療資源投入量が) 3000 点以上を  
高度急性期と考え、まずは 8 床を目指そうという結論に至った。

○埼玉精神神経センター

資料 4 - 2 に基づいて説明。

(質疑応答)

Q 精神病床も機能分化の対象となるのか。

A (事務局) 地域医療構想においては、一般病床の機能分化を進めているので、精神  
病床はその対象にならない。一方で、埼玉精神神経センターさんからご説明があっ  
たように、(一般病床でも) 精神科救急や認知症といった問題がある。解決していく

ためには、地域との連携が重要であると考え、今回、埼玉精神神経センターさんにもお越しいただいた。

○さいたま赤十字病院

資料4-3に基づいて説明。

○さいたま北部医療センター

資料4-4に基づいて説明。

○彩の国東大宮メディカルセンター

資料4-5に基づいて説明。

(質疑応答)

Q 無輸血手術について伺いたい。さいたま赤十字病院では、相対的無輸血、つまり最終的には輸血をせざるを得ない立場をとっている。彩の国東大宮メディカルセンターへ、そういった患者さんを紹介してもよいか。

A 是非、紹介していただきたい。当院では、無輸血手術をする方法として、希釈法やいろいろな方法をとっている。もちろん厳しい倫理委員会を通して、その上で、ご家族や病院のスタッフの協力を得て、臍頭十二指腸切除術や門脈合併切除を実施している。虎の門病院からもたくさん紹介をいただいている。

Q 今後、外国人の患者さんを積極的に受け入れていく、あるいはメディカルツアーの患者さんを受け入れていくなどの予定はあるのか。

A 当院では、この10月から、国際診療部ができている。厚生労働省や経済産業省では、東京オリンピックまでに外国人患者の受け入れ環境を整備するための補助金を交付しており、当院はその補助金の交付を受けている。また、来年1月にJMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）の認証に向けて動いている。

○指扇病院

資料4-6に基づいて説明。

○自治医科大学附属さいたま医療センター

資料4-7に基づいて説明。

(質疑応答)

Q (当病院の未来像に記載のある)慢性期とはどういった位置づけなのか。他施設を利用されるということか。

A 回復期あるいは慢性期に対応した病院との連携ということである。地域包括ケア病棟を作るかについては、迷っている。

Q患者サポートセンターの機能について伺いたい。

Aいわゆる PFM (Patient Flow Management) である。これは患者さんのためだけではなく、PFM が進んでいくと、看護師等の負担軽減につながる。また、病床を効率よく運用できると期待している。

○西大宮病院

資料 4 - 8 に基づいて説明。

#### 《総括質疑》

- ・ 8 病院それぞれのコンセプトが表れていて非常にすばらしいプレゼンだった。
- ・ 百村委員の発言にもあったが、今後、慢性期や在宅とのシームレスな連携をしていく必要がある。
- ・ やはり急性期病院は、回復期リハや地域包括ケアをとっている病院と連携し、機能分化をしていくことが本来の姿だと思う。(日本国内では) ある病院グループが、大きなネットワークを作り、高度急性期から慢性期、在宅医療まで患者を受け入れているが、(医療機関毎の機能分化を進めていくという) あるべき姿とは違うのではないかと思う。
- ・ 回復期リハと地域包括ケアをとっている病院は、今後も増加していく。一方で、高齢化を踏まえると、急性期の患者さんも市内ではすぐに少なくならないと思われるので、多くの病院が地域包括ケアを選択すると思うが、あまりポストアキュートばかりとっていくことは望ましくないと思っている。

#### 《議題 (2) その他》

- ・ 第 4 回の調整会議の日程については、2 月ないしは 3 月頃を予定している。会場については、本日と同じ会場で、19 時 30 分から開催したいと考えている。日程等が決まったら、市のホームページ上で公表するので、傍聴を希望される方は、申し込んでほしい。

以上